



32)

南氷洋白長須鯨の  
食餌 Euphausia ~~に~~ <sup>の餌を</sup> 捕った。

丸川 久俊

日本捕鯨船北が昨年諸島からアークアーク  
ツク船及びこれに附随せる捕鯨船二隻を捕入し  
て南氷洋に捕鯨業を開始することになったが、  
此の捕鯨工船隊回航の途次南氷洋に於て十一  
、一及び二一月の約三ヶ月に二万数十頭の鯨を  
捕獲、(工船内に於て採油を行ひ、好成績を収  
めて、今年白月上旬迄神戸に着港して帰  
いた。

No.

日本が日本文人の南氷洋捕鯨進出に世界の耳目を衝動せしめたことは莫に一大快事である。  
 新の崙に認めずるは其の時<sup>南氷洋</sup>で取れた白長須鯨の胃の中から食餌として発見されたゴブアミ<sup>ゴ</sup>の類である Euphausia 一種に就いてある。此の一種は体長 54~57 <sup>mm</sup> ~~cm~~ であり此の如き大形のものは我近海には認めらるることの出来ぬおいらのである。南氷洋には E. superba と云ふ種類が多くて其れが最大の種類だと云はれてゐるので、此の種類は多分それだと想

No.

像したのであるが、殻を調べて見ると違つて  
 来て、Carapace の下縁中央部より物を前方  
 に立派に一棘を備へて居る。こゝ及び Telson  
 の構造が餘程違つて居る。こゝで殻を調  
 へた結果は、murrayi G. O. Sars と決定した。  
 南氷洋の Schizopoda の <sup>標本</sup>調査は Challenger Ex-  
 pedition (1873-1876) に於て行はれ、G. O. Sars  
 に依り 1885 年に發表されて居る。其の中は、  
 murrayi と決定することが出来た。但し、  
 の標本は <sup>前掲</sup> ~~前掲~~ 長が 43 mm. と云つて居るが、此  
 の記載では

の標本は実<sup>54</sup>に  $\# - 57$  mm. の体長であり、南  
 氷洋の *Euphausia* 中で最大だと云はれた。此  
*superba* の月<sup>19日</sup>に記載に  $48$  mm. と云つてゐ  
 3 のより更に大きいことである。

他の一種は体長  $24 - 25$  mm. である。此の種は  
*E. glacialis* Hudson. である。此の種も亦  
 既に 1898 年に Southern Cross 号に依りて  
 南氷洋で採集され、それを 1902 年の月<sup>19日</sup>号 *Ex-  
 pedition* の報告書の中で Hudson が發表した  
 種類である。